



ニッセイ世界株式ファンド（GDP型バスケット）

＜購入・換金手数料なし＞

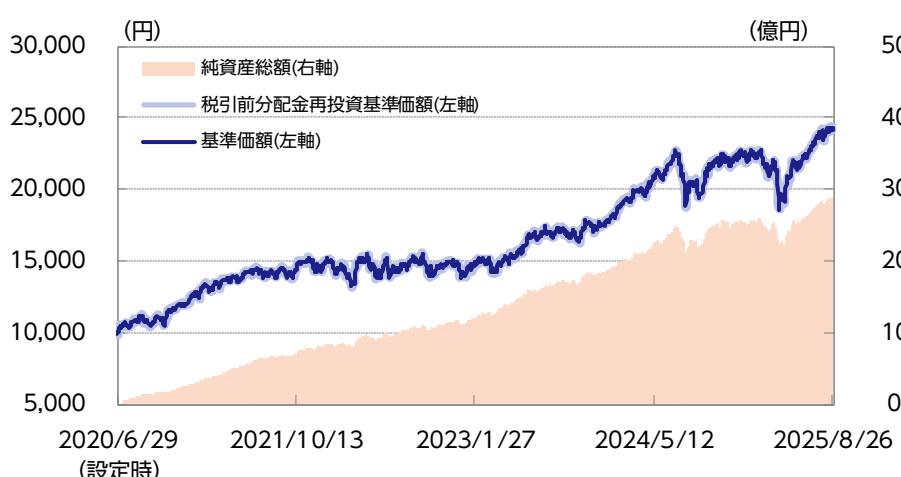
NISSAY
ASSET MANAGEMENT

追加型投信／内外／株式

マンスリーレポート
2025年8月末現在

運用実績

基準価額・純資産の推移



基準価額および純資産総額

基準価額	24,171円	
前月末比	110円	
純資産総額	28億円	
組入マザー純資産総額	16,691億円	
合計 (参考)		
分配の推移 (1万口当たり、税引前)		
第1期	2020年11月	0円
第2期	2021年11月	0円
第3期	2022年11月	0円
第4期	2023年11月	0円
第5期	2024年11月	0円
第6期	2025年11月	—
第7期	2026年11月	—
直近1年間累計		
設定来累計額	0円	

基準価額の騰落率 (税引前分配金再投資)

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	0.5%	11.1%	11.2%	19.1%	62.2%	141.7%

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※基準価額は信託報酬控除後のものです。税引前分配金再投資基準価額は分配金（税引前）を再投資したものとして計算しております。なお、信託報酬率は「手続・手数料等」の「ファンドの費用」をご覧ください。

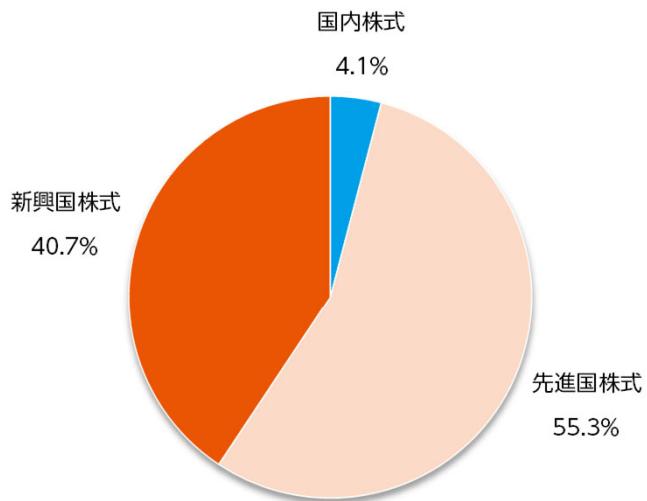
※運用状況によっては、分配金額が変わること、あるいは分配金が支払われない場合があります。分配金は信託財産から支払いますので、基準価額が下がる要因となります。収益分配金には普通分配金に対して所得税および地方税がかかります（個人受益者の場合）。

※ファンド騰落率は分配金（税引前）を再投資したものとして計算しており、実際の投資家利回りとは異なります。

※基準価額の前月末比は、決算日到来月に分配金支払実績がある場合、分配込みで算出しています。

※組入マザー純資産総額合計は、ニッセイ国内株式インデックス マザーファンド、ニッセイ外国株式インデックス マザーファンド、ニッセイ新興国株式インデックス マザーファンドの純資産総額の合計値です。

資産別組入比率



※対組入マザーファンド評価額比

※基本投資割合はIMF「世界経済見通し2024年10月」のデータをもとに決定しています。

運用体制

原則作成基準日時点での情報に基づきます。

2025年6月30日時点

運用責任者	山崎 高央
経験年数	16年
運用担当部	ファイナンシャルテクノロジー運用部

マザーファンドの状況

国内株式（ニッセイ国内株式インデックス マザーファンド）

騰落率

	ファンド	ベンチマーク
1ヶ月	4.5%	4.5%
3ヶ月	10.0%	9.9%
6ヶ月	16.2%	16.2%
1年	16.2%	16.2%
3年	68.7%	68.8%

※左記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※ファンド騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。

※ベンチマークはTOPIX（東証株価指数）（配当込み）としています。

組入上位10業種

	業種	比率
1	電気機器	17.0%
2	銀行業	9.4%
3	情報・通信業	8.3%
4	卸売業	7.2%
5	輸送用機器	6.9%
6	機械	6.0%
7	化学	4.7%
8	小売業	4.6%
9	サービス業	4.3%
10	医薬品	3.7%

※対組入株式評価額比

組入上位10銘柄

	銘柄	比率
1	トヨタ自動車	3.5%
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	3.3%
3	ソニーグループ	3.2%
4	日立製作所	2.4%
5	任天堂	1.9%
6	三井住友フィナンシャルグループ	1.9%
7	ソフトバンクグループ	1.8%
8	三菱重工業	1.5%
9	三菱商事	1.5%
10	リクルートホールディングス	1.5%

※対組入株式評価額比

当月の市況動向

当月の国内株式市場は上昇しました。

上旬から中旬にかけては、4~6月期決算において堅調な企業業績が確認されたことや、米国との関税交渉の進展、米国の利下げ期待などを受けて、株価は上昇しました。しかし下旬にかけては、日銀の利上げ観測の高まりによる円高懸念で外需銘柄が軟調に推移したことや、短期的な過熱感を嫌気した利益確定の売りに押され、横ばい圏での推移となりました。日経平均株価の月末終値は42,718.47円（前月末比+1,648.65円）となりました。

東証株価指数（TOPIX）の月末終値は3,075.18ポイント（前月末比+132.11ポイント）、JPX日経インデックス400の月末終値は27,581.93ポイント（前月末比+1,073.40ポイント）となりました。

先進国株式（ニッセイ外国株式インデックス マザーファンド）

騰落率

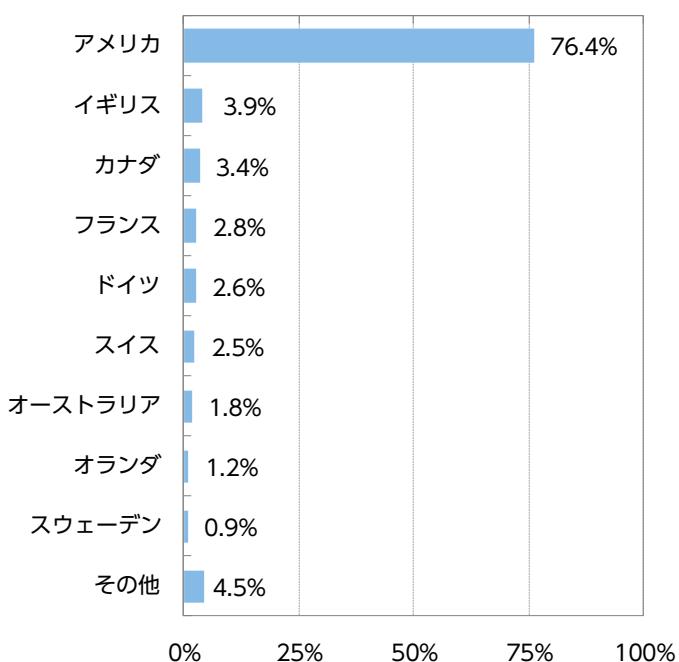
	ファンド	ベンチマーク
1ヶ月	0.8%	0.8%
3ヶ月	11.5%	11.4%
6ヶ月	10.3%	10.2%
1年	19.3%	19.1%
3年	77.8%	76.7%

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※ファンド騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。

※ベンチマークはMSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース）としています。

国・地域別組入比率



※対組入株式等評価額比

※国・地域はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。以下同じです。

組入上位10銘柄

(銘柄数：1141)

	銘柄	業種	比率
1	エヌビディア	情報技術	5.9%
2	マイクロソフト	情報技術	4.8%
3	アップル	情報技術	4.7%
4	アマゾン・ドット・コム	一般消費財・サービス	3.0%
5	メタ・プラットフォームズ	コミュニケーション・サービス	2.2%
6	ブロードコム	情報技術	1.9%
7	アルファベット (A)	コミュニケーション・サービス	1.7%
8	アルファベット (C)	コミュニケーション・サービス	1.4%
9	テスラ	一般消費財・サービス	1.3%
10	J Pモルガン・チェース・アンド・カンパニー	金融	1.1%

※対組入株式等評価額比

※業種はGICS分類（セクター）によるものです。なお、GICSに関する知的財産所有権はS&PおよびMSCI Inc.に帰属します。以下同じです。

当月の市況動向

当月の世界株式市場は、主要なグローバル企業の良好な業績動向や、米利下げ観測の高まりなどから、上昇しました。

月初は軟調な7月の米雇用統計から米景気に対する懸念が嫌気されるも、米利下げ期待の高まりや、主要なグローバル企業の良好な業績動向を下支えに、下旬までは上昇する展開となりました。

下旬は、経済シンポジウム「ジャクソンホール会議」における講演でパウエル米連邦準備制度理事会（F R B）議長が利下げの可能性を示唆したものの、既に金融市場では織り込み済みであったことや、人工知能（A I）技術をけん引する米半導体企業の業績発表も市場予想の範囲内であり、それまでの株価上昇で高値警戒感もあったことから、小幅に上げ幅を縮小して月末を迎えました。

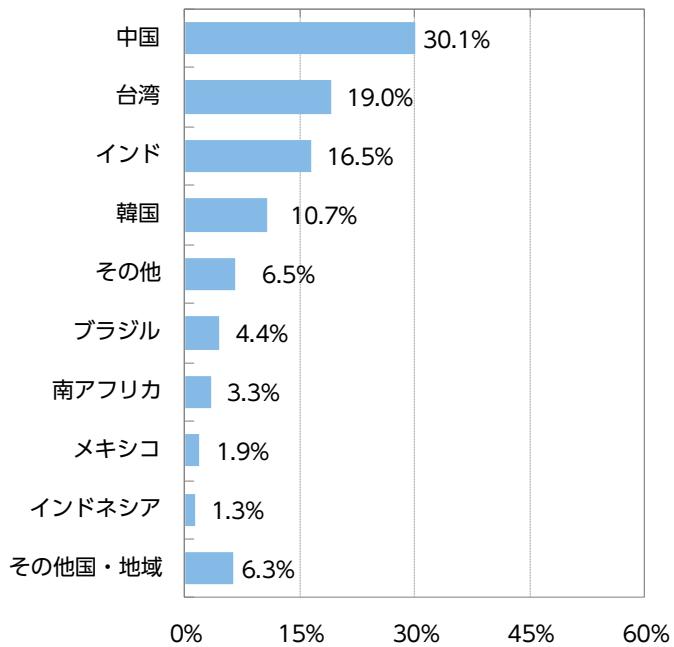
新興国株式（ニッセイ新興国株式インデックス マザーファンド）

騰落率

	ファンド	ベンチマーク
1ヵ月	-0.4%	-0.7%
3ヵ月	10.9%	10.6%
6ヵ月	12.3%	12.0%
1年	19.4%	19.4%
3年	44.8%	45.1%

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。
 ※ファンド騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。
 ※ベンチマークはMSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円換算ベース）としています。

国・地域別組入比率



※対組入株式等評価額比

※「その他」にはETFを含みます。

組入上位10銘柄

(銘柄数：976)

	銘柄	業種	比率
1	台湾セミコンダクター（TSMC）	情報技術	10.3%
2	騰訊控股 [テンセント・ホールディングス]	コミュニケーション・サービス	5.4%
3	iシェアーズMSCIサウジアラビアETF	その他	3.3%
4	アリババ・グループ・ホールディング	一般消費財・サービス	2.8%
5	サムスン電子	情報技術	2.6%
6	iシェアーズMSCI UAEキャップトETF	その他	1.7%
7	HDFC銀行	金融	1.4%
8	小米集團 [シャオミ]	情報技術	1.3%
9	SKハイニックス	情報技術	1.2%
10	リライアンス・インダストリーズ	エネルギー	1.1%

※対組入株式等評価額比

※業種の「その他」にはETFを含みます。

当月の市況動向

当月の世界株式市場は、主要なグローバル企業の良好な業績動向や、米利下げ観測の高まりなどから、上昇しました。

月初は軟調な7月の米雇用統計から米景気に対する懸念が嫌気されるも、米利下げ期待の高まりや、主要なグローバル企業の良好な業績動向を下支えに、下旬までは上昇する展開となりました。

下旬は、経済シンポジウム「ジャクソンホール会議」における講演でパウエルF R B議長が利下げの可能性を示唆したもの、既に金融市場では織り込み済みであったことや、AI技術をけん引する米半導体企業の業績発表も市場予想の範囲内であり、それまでの株価上昇で高値警戒感もあったことから、小幅に上げ幅を縮小して月末を迎えました。

月間では新興国の株式は上昇しました。国・地域別では、ブラジルや南アフリカが上昇した一方、インドや韓国が下落しました。セクター別では、素材やコミュニケーション・サービスが上昇した一方、エネルギー・ヘルスケアが下落しました。

為替は、米利下げ観測の高まりや、トランプ米大統領がF R B理事の解任を表明したことなどを受けて米ドル安が進行し、円は対米ドルを中心に円高となりました。

ファンドの特色

①世界の株式に分散投資を行います。

【投資対象とするマザーファンド】

ニッセイ国内株式インデックスマザーファンド	「TOPIX（東証株価指数）（配当込み）」の動きに連動する投資成果をめざします。
ニッセイ外国株式インデックスマザーファンド	「MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース）」の動きに連動する投資成果をめざします。
ニッセイ新興国株式インデックスマザーファンド*	「MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円換算ベース）」の動きに連動する投資成果をめざします。

*投資対象には、DR（預託証券）もしくは株式等と同等の投資効果が得られる証券および証書等を含みます。DR（預託証券）とは、Depositary Receiptの略で、ある国の企業の株式を海外で流通させるために、その会社の株式を銀行などに預託し海外で発行される証券をいい、株式と同様に金融商品取引所などで取引されます。

②国内株式、先進国株式（除く日本）、新興国株式への基本投資割合は、名目GDP（国内総生産）総額の比率に基づき決定します。

※原則として、年1回基本投資割合の見直しを行います。

③購入時および換金時の手数料は無料です。

〈各指数について〉

●TOPIX（東証株価指数）

TOPIX（東証株価指数）とは、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により株式会社JPX総研が算出する株価指数です。

TOPIX（東証株価指数）の指数值および同指数にかかる標章または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社（以下「JPX」といいます）の知的財産であり、指數の算出、指數値の公表、利用など同指數に関するすべての権利・ノウハウおよび同指數にかかる標章または商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、同指數の指數値の算出または公表の誤謬、遅延または中断に対し、責任を負いません。当ファンドは、JPXにより提供、保証または販売されるものではなく、当ファンドの設定、販売および販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPXは責任を負いません。

●MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース）

MSCIコクサイ・インデックス（配当込み）はMSCI Inc.が公表している指數であり、日本を除く主要先進国の株式により構成されています。同指數に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指數の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。なお、「円換算ベース」とは同指數をもとに、委託会社が独自に円換算したものです。

●MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円換算ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み）はMSCI Inc.が公表している指數であり、世界の新興国の株式により構成されています。同指數に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指數の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。なお、「円換算ベース」とは同指數をもとに、委託会社が独自に円換算したものです。

投資リスク

※ご購入に際しては、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みください。

基準価額の変動要因

- ファンド（マザーファンドを含みます）は、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本を割込むことがあります。
- ファンドは、預貯金とは異なり、投資元本および利回りの保証はありません。運用成果（損益）はすべて投資者の皆様のものとなりますので、ファンドのリスクを十分にご認識ください。

主な変動要因

株式投資リスク	株式は国内および国際的な景気、経済、社会情勢の変化等の影響を受け、また業績悪化（倒産に至る場合も含む）等により、価格が下落することがあります。
為替変動リスク	原則として対円での為替ヘッジを行わないため、外貨建資産については、為替変動の影響を直接的に受けます。一般に円高局面ではファンドの資産価値が減少します。
カントリーリスク	外国の資産に投資するため、各国の政治・経済情勢、外国為替規制、資本規制等による影響を受け、ファンドの資産価値が減少する可能性があります。特に、新興国の経済状況は先進国経済と比較して一般的に脆弱である可能性があり、ファンドの資産価値が大きく減少したり、運用方針にそった運用が困難になる可能性があります。
流動性リスク	市場規模が小さいまたは取引量が少ない場合、市場実勢から予期される時期または価格で取引が行えず、損失を被る可能性があります。

！ 基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

- 新興国の株式投資に関しては、以下の事項にご留意ください。

金融商品取引所の取引の停止（個別銘柄の売買停止等を含みます）、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情（投資対象国・地域における非常事態の発生※による市場の閉鎖、流動性の著しい低下あるいは資金の受渡しに関する障害等）があるときには、ファンドの購入・換金の申込みの受付けを中止すること、および既に受付けた購入・換金の申込みの受付けを取消すことがあります。

※金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、クーデターや重大な政治体制の変更等。

- ストックコネクト※を通じた取引に関しては、以下の事項にご留意ください。

ファンドは中国A株への投資に際し、ストックコネクト（上海・香港相互株式取引制度および深セン・香港相互株式取引制度）を通じて行う場合があります。ストックコネクトを通じた投資は、取引や決済に関する特有の制限などで意図した取引等ができない場合、取引等に特有の費用が課される場合、ストックコネクトにおける取引停止や中国本土市場と香港市場の休業日の違いにより、中国本土市場の急変あるいは株価の大幅な変動時に対応できない場合には、ファンドの資産価値が減少する要因となることがあります。また、ストックコネクトでは、投資者が不利益を被る大きな制度変更が行われる可能性があります。

※ストックコネクトとは、ファンドを含む外国の投資家が、上海証券取引所および深セン証券取引所の中国A株を香港の証券会社を通じて売買することができる制度です。なお、中国A株とは、主な投資家として中国居住者を想定しているものですが、一定の条件のもとでファンドを含む外国の投資家にも投資が認められています。

分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの信託財産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

- 受益者のファンドの購入価額によっては、支払われる分配金の一部または全部が実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

- ファンドは、多量の換金の申込みが発生し換金代金を短期間で手当てする必要が生じた場合や組入資産の主たる取引市場において市場環境が急変した場合等には、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引ができるリスク、取引量が限定されるリスク等が顕在します。

これらにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金の申込みの受付けを中止する、また既に受付けた換金の申込みの受付けを取消しする可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性などがあります。

ニッセイ世界株式ファンド（GDP型バスケット）<購入・換金手数料なし>マンスリーレポート

手 続・手 数 料 等

※基準価額は便宜上1万口当たりに換算した価額で表示されます。

お申込みメモ

購入時	購入単位	販売会社が定める単位とします。
	購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金時	換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
	換金代金	換金申込受付日から起算して、原則として8営業日目からお支払いします。
申込について	申込締切時間	原則として毎営業日の午後3時30分までに販売会社の手続きが完了したものを当日受付分とします。ただし、申込締切時間は販売会社によって異なる場合がありますので、詳しくは販売会社にご確認ください。
	申込不可日	次のいずれかの休業日と同日の場合は、購入・換金の申込みの受け付けを行いません。 ・ニューヨーク証券取引所、ニューヨークの銀行、ロンドン証券取引所、ロンドンの銀行、香港取引決済所、香港の銀行 海外休日カレンダー： https://www.nam.co.jp/fundinfo/calendar/holiday.html#hdg28
決算・分配	決算日	11月20日（該当日が休業日の場合は翌営業日）
	収益分配	年1回の毎決算日に、収益分配方針に基づき収益分配を行います。
その他	信託期間	無期限（設定日：2020年6月29日）
	繰上償還	委託会社はあらかじめ受益者に書面により通知する等の手続きを経て、ファンドを繰上償還させることができます。
	課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。 配当控除、益金不算入制度の適用はありません。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA（少額投資非課税制度）の対象となり、当ファンドは、NISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」および「つみたて投資枠（特定累積投資勘定）」の対象となります。ただし、販売会社により取扱いが異なる場合があります。 詳しくは、販売会社にお問合せください。

！ ご購入に際しては、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みください。

ニッセイ世界株式ファンド（GDP型バスケット）<購入・換金手数料なし>マンスリーレポート

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
購入時	購入時手数料	ありません。
換金時	換金時手数料	ありません。
	信託財産留保額	ありません。
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
毎 日	運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの純資産総額に年率0.1144%（税抜0.104%）以内の率をかけた額とし、ファンドからご負担いただきます。
	監査費用	ファンドの純資産総額に年率0.0011%（税抜0.001%）をかけた額とし、ファンドからご負担いただきます。
随時	その他の費用・手数料	組入有価証券の売買委託手数料、信託事務の諸費用および借入金の利息等はファンドからご負担いただきます。これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を記載することはできません。

！ 当該費用の合計額、その上限額および計算方法は、運用状況および受益者の保有期間等により異なるため、事前に記載することはできません。

！ 詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

税金

分配時の普通分配金、換金（解約）時および償還時の差益（譲渡益）に対して、所得税および地方税がかかります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

- 少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」は少額上場株式等に関する非課税制度であり、NISAをご利用の場合、一定の額を上限として、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が無期限で非課税となります。ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設し、税法上の要件を満たしたファンドを購入するなど、一定の条件に該当する方となります。
詳しくは、販売会社にお問合せください。
- 外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が投資信託説明書（交付目論見書）の記載と異なる場合があります。
- 法人の場合は上記とは異なります。
- 確定拠出年金法に基づく運用として購入する加入者については、確定拠出年金の積立金の運用にかかる税制が適用され、またNISAおよび外国税額控除の適用対象外です。
- 税金の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

委託会社【ファンドの運用の指図を行います】	ファンドに関するお問合せ先
ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者登録番号 関東財務局長（金商）第369号 加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会	ニッセイアセットマネジメント株式会社 コールセンター 0120-762-506 9:00～17:00（土日祝日・年末年始を除く） ホームページ https://www.nam.co.jp/
受託会社【ファンドの財産の保管および管理を行います】	
三菱UFJ信託銀行株式会社	

ご留意いただきたい事項

- ①投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動し、運用成果（損益）はすべて投資者の皆様のものとなります。投資元本および利回りが保証された商品ではありません。
- ②当資料はニッセイアセットマネジメントが作成したものです。ご購入に際しては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等（目論見書補完書面を含む）の内容を十分にお読みになり、ご自身でご判断ください。
- ③投資信託は、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金による支払いの対象にはなりません。
- ④投資信託のお取引に関しては、クーリング・オフ（金融商品取引法第37条の6の規定）の適用はありません。
- ⑤当資料のいかなる内容も将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。また、資金動向、市況動向等によっては方針通りの運用ができない場合があります。
- ⑥当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- ⑦当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- ⑧当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- ⑨当資料の内容は原則作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

取扱販売会社一覧

※販売会社は今後変更となる場合があります。また、販売会社によっては、新規のお申込みを停止している場合もあります。

詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問合せください。

取扱販売会社名	金融商品取引業者	登録金融機関	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
株式会社SBI証券	○		関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
岡三証券株式会社(※2)	○		関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○
光世証券株式会社	○		近畿財務局長(金商)第14号	○			
松井証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第164号	○		○	
マネックス証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○
三菱UFJ eスマート証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	○
moomo証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第3335号	○	○		
楽天証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
株式会社イオン銀行（委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社）		○	関東財務局長(登金)第633号	○			
株式会社SBI新生銀行（委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券）		○	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社SBI新生銀行（委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社）		○	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
スルガ銀行株式会社		○	東海財務局長(登金)第8号	○			
PayPay銀行株式会社		○	関東財務局長(登金)第624号	○		○	
株式会社三菱UFJ銀行(※2)		○	関東財務局長(登金)第5号	○		○	○
ニッセイアセットマネジメント株式会社(※1)	○		関東財務局長(金商)第369号		○		

(※1)一般社団法人投資信託協会にも加入しております。

(※2)インターネットのみのお取扱いとなります。